

昭和二十一年六月十一日
渉外 譯

從軍記者

ロバートウモアレー 伍長

一九四六年六月十日星條紙より

沖繩發

公式記録に依れば沖繩攻略戦は一九四五年六月二十一日に終りを告げ第二次世界大戦も同年九月二日東京灣ミズーリ號上に於ける日本降伏調印を以て終結した。

今日沖繩各地戦闘情報部隊は日本降伏の事實を信ぜず又は降伏するを潔しとせぬ琉球地區を日本人驅り出しに努力してゐる。

之は情報作戦部長G、且ボツター大尉の日課となり最近は十六名を日本兵逮捕に成功した、之等十六名は日本降伏の事實を信ぜず過去十八ヶ月間沖繩東方三マイルイワ上方二個の洞窟に潜んでゐたのである。

イワ地區の海兵隊憲兵がイワ政百ヤード先の洞窟に「一人間」が住んでゐるとの報告を受領し直ちにG2に報した結果G12 O B A S O M の J、マク、ラフリン中尉指揮下の巡察隊により彼等は發見せられたのである。

或る早朝マクラフリン中尉は下士官一名二世通譯を三名從へイワ踏索に
出發した。十時頃日本兵の潜在せる洞窟を發見彼等の反抗に備へ戰鬪巡
邊隊を同所に急行せしめ同隊の到着を持つて更に村の巡査二名を呼び奇
せ二世軍曹 [] と共に洞窟に入りました。洞窟内二百ヤード先で潛
伏兵に出遭つたが彼等は抵抗を示さなかつた。唯 [] 軍曹を疑惑の目を
以て睨め日本降伏を容易に信じなかつたがまづ内三名が日本降伏の事實
を確める爲外に出る事になつたのである斯様にして遂に彼等は洞窟を外
にし直ちに邦軍の俘虜收容所に收容せられ日本の新聞とパンを與へられ
たのである又内一名は同收容所に於いて元の戦友に出會ひ日本降伏の事
實と反抗無意を説得せられた。
彼等の潜伏せる洞窟内の状態は悲惨極りなきものであり通風の設備なく
食糧（米袋米兵野戰食糧等）は殆んど腐敗してゐた又一ダースの燈用ラ
ンプを用ひてゐた尙米兵の新聞雜誌中には二月二十七日附星條紙も發見
せられた。